ふだん

第2章
トピックス

あの時の出来事を再現

双葉町の70年の歴史には、町民各層の活躍や行政システムの変革、福祉施設・交流施設といった社会資本の整備などさまざまな出来事が刻まれている。ジャンル別に新聞記事や町広報の紙面からその一端をまとめている。

姉妹町・友好町・友好都市との交流

双葉町は京都府の旧瑞穂町と姉妹町、瑞穂町などが合併して誕生した京丹波町と友好町を締結し、交流してきた。東日本大震災では京丹波町から物心両面での支援をいただき、両町の「子ども交流会」などで絆を深めてきた。また、東日本大震災の避難で双葉町民を受け入れ、双葉町を支えていただいた縁で埼玉県加須市と友好都市の盟約を結んでいる。両市町との結びつきは双葉町にとって宝であり、感謝の気持ちを後世まで伝えていくとともに、今後もさらに交流を広げていきたい。

合併しても変わらぬ絆

姉妹町の旧瑞穂町

友好町の京丹波町

旧瑞穂町とは昭和45年５月21日、大阪万博で日本電信電話公社（現NTT）が企画したテレビ対談「あなたの町、わたしの町」に、当時の両町長が出演したことで交流が始まった。

平成６年、双葉高校野球部が夏の甲子園に出場した際、瑞穂町長らが応援に駆けつけ、再び交流が深まった。同年10月25日、24年間の友好関係を一層、深めるため姉妹町を締結した。

農業青年後継者の交流や行政視察、両町の小中学生が１年おきに相互訪問する「姉妹町子ども交流会」などで、両町の絆は固くなっていた。瑞穂町は合併後、新たに「京丹波町」として誕生した。京丹波町は旧瑞穂町の意思を引き継ぎ、平成18年５月11日、双葉町と友好町を提携した。東日本大震災の際には、いち早く川俣町の避難所や埼玉県旧騎西高校へ物心両面にわたり支援をいただき、さらに社会教育委員の発案で「双葉の折鶴支援プロジェクト」が始まり、３年間、折り紙で折った千羽鶴と支援金を届けていただいた。その後も京丹波町の町民の皆さんが双葉町を訪問したり、子ども交流会で中・高校生らがいわき市の復興住宅や相馬野馬追を見学するなど折ごとに交流、支援が続いている。

京丹波町から寄せられた義援金（川俣合宿所）＝平成23年３月15日

千羽鶴や寄せ書きなど京丹波町よりの支援＝平成24年３月22日

太田京丹波町長が双葉町を訪れ伊澤町長と町内を視察＝平成30年11月７日

京丹波町の方々や関西大学の学生、双葉町婦人会による「ダルマ折り紙プロジェクト」の交流

２４年間の交流を経て 京都府瑞穂町と姉妹町締結

十月二十五日、京都府瑞穂町の黒田一夫町長と双葉町の岩本忠夫町長が、両町の豊かで住みよいまちづくりに寄与することを目的として、姉妹町締結証書に署名、昭和四十五年以来、二十四年間続いてきた友好関係を正式なものとし、今後も交流を深めていくことを改めて誓いあいました。

▲署名を終え握手を交わす黒田町長（右）と岩本町長

コンピューターの縁組があたたかい人の交流に

双葉町と瑞穂町の交流は昭和四十五年五月二十一日、大阪万国博覧会において日本電信電話公社（現NTT）が「人間とコミュニケーション」をテーマに企画したテレビ対談「あなたの町わたしの町」に当時の田中清太郎町長と瑞穂町の太田敏博町長が出演、お互いの町のすがたや町政について対談したことに始まります。

これは、あらかじめ実施されたアンケートからコンピューターが百八十三組を選び出し、そのなかの一つに「瑞穂町－双葉町」の組み合わせが選ばれていたものです。

その後、青年同士の交流、両町の合併記念式典にお互いを招待したり、行政視察で訪問しあうなど交流を深めてきました。

甲子園できずなを確認

今年八月、双葉高校の甲子園出場時には、アルプススタンドから岩本町長とともに黒田一夫町長、高橋毅助役の応援をいただき、両町のきずなの強さを身近に感じるようになっていました。

甲子園のスタンドで「両町の友好を正式なものにして、今後とも交流と親ぼくを深めていこう」と確認しあい今回の姉妹町締結となりました。

瑞穂町で調印式

調印式には瑞穂町から黒田町長、真宮靖夫議会議長、町職員など二十人が、本町からは岩本町長、大井誠議会議長ら八人が出席し、瑞穂町役場で行われました。

式では出席者紹介に続いて姉妹町締結証書に両町長が署名、締結書を交換し固い握手を交わしました。

黒田町長が「人の交流はもちろん産業経済、教育文化など各方面での交流を通して両町の限りない発展を願う」とあいさつ、岩本町長も「新たな出発となるこの日を迎えることができ心からうれしく思う。交流を続けていくなかで多くのことを学ばせていただきたい」とあいさつを述べました。

そのあと、瑞穂町の畠中正二前町長が万博当時、総務課長として同席したテレビ対談の際、太田敏弘元町長に「大きな画面で話すのだから大きなことを言わなければ」と話した思いでなどを交え祝辞を述べました。

瑞穂町への進出が決定した㈱金門製作所・小野田元社長の亡き尊父小野田忠氏は本町の名誉町民、亡きおばさま・十文字こと氏が瑞穂町出身であり両町と縁の深い同社長から祝電と生花が届き会場を彩りました。

調印を終えたのち会場を瑞穂町総合運動公園に移し、姉妹町締結を記念して瑞穂町の花「サザンカ」と双葉町の花「サクラ」を植樹し調印式は終了しました。

▶記念植樹

広報ふたば　平成６年12月号

岩本町長と握手を交わす黒田瑞穂町長（左から２人目）ら

末永い姉妹交流を

来月合併閉町の京都・瑞穂町長

双葉町訪れ、町長と懇談

双葉町の姉妹町・京都府瑞穂町の黒田一夫町長が二十六日、双葉町役場を訪れ岩本忠夫町長らと懇談した。黒田町長は瑞穂町が来月の合併で閉町することを報告し、その後も友好関係を継続していきたいと提案。岩本町長も賛同し、両町の友情をあらためて確認しました。

町役場には黒田町長のほか森下雅之収入役、長谷川博文企画総務課長が一緒に訪れた。職員の出迎えを受け花束を受け取った黒田町長は「瑞穂町は来月十一日、丹波町、和知町と合併し京丹波町となる。寂しいが合併協議のなかで双葉町との交流継続を要請しているので、これからもよろしくお願いしたい」とあいさつした。引き続き岩本町長と懇談、新たな交流のあり方については今後具体的に検討していくことでまとまった。

両町の交流が始まったのは三十五年前の昭和四十五年。大阪万博で日本電信（現NTT）が企画したテレビ対談に、当時の田中清太郎双葉町長と太田敏博瑞穂町長が出演したのがきっかけ。以来、町議、区長、青年会のメンバーらが相互に訪問し友好を深めている。ただ、書面での取り交わしがなかったことから二十五年目の平成六年、岩本町長と黒田町長があらためて姉妹町協定を結んだ。

平成17年９月29日付
福島民報

合併後も交流継続

姉妹協定旧瑞穂町の意志継ぐ 友好提携に調印

双葉町　京丹波町（京都）

友好町提携の調印を行った井戸川・双葉（左）、松原・京丹波の両町長

双葉町はこのほど、京都府の京丹波町と友好町提携に調印した。京丹波町は昨年十月、双葉町が姉妹町として交流していた瑞穂町が丹波、和知両町と合併して誕生。旧瑞穂町の意志を引き継ぐ形で、あらためて友情をはぐくむことにした。

調印式は京都内の厚生会館で行われた。双葉町の井戸川克隆町長と京丹波町の松原茂樹町長が両町の繁栄と友好を誓い、教育、文化、産業経済、スポーツなど幅広い分野で交流するとした提携書にサインした。

引き続き懇談会を催し、具体的な交流事業については今後協議することと、両町がそれぞれ町の意志を引き継ぐ形で、あらためて友情をはぐくむことを約束し固い握手を交わした。

双葉町と旧瑞穂町の交流は昭和四十五年、大阪万博で日本電信（現NTT）が企画したテレビ対談に、当時の田中清太郎双葉町長と太田敏博瑞穂町長が出演したのがきっかけ。以来、町議、区長、青年会のメンバーらが相互に訪問し友好を深めていた。ただ、書面での取り交わしがなかったことから二十五年目の平成六年、岩本町長と黒田町長があらためて姉妹町協定を結んだ。

昨年九月には旧瑞穂町の黒田一夫町長が双葉町を訪問、合併による閉町を報告するとともに友好関係の継続を提案していた。

話対談に、当時の田中清太郎双葉町長と太田敏博瑞穂町長が出演したのがきっかけ。以来、町議、区長、青年会のメンバーらが相互に訪問し友好を深めていた。ただ、書面での取り交わしがなかったことから二十五年目の平成六年、岩本町長と黒田町長があらためて姉妹町協定を結んだ。

平成18年６月１日付 福島民報

加須市と縁友好都市に

双葉町旗を持つ加須市の大橋市長と加須市旗を手にする双葉町の伊澤町長＝平成28年11月３日

友好都市盟約締結式

友好都市盟約締結式で一層の交流を誓った両市町の関係者

友好都市締結を祝って披露された
標葉せんだん太鼓保存会による演奏

埼玉県加須（かぞ）市は平成23年３月に発生した東日本大震災と原発事故で避難を余儀なくされた双葉町民を受け入れていただいた。４月１日には、県立旧騎西（きさい）高校内に避難所とともに、役場機能を設置し、平成25年６月17日にいわき事務所が開所されるまで約２年３カ月にわたって役場としての機能を果たした。加須市長をはじめ、多くの市民の皆さんから物心両面にわたり多大なご支援をいただいた。震災発生直後には避難所に加須市から鯉のぼりの寄贈があった。これらの真心は双葉町の歴史に深く刻まれている。

加須市とのご縁を大切に、加須市民のご厚意に対する感謝の念を後世に引き継ぐとともに、今後、交流の輪を広げ、友好の絆を一層強いものとすることを目的に、平成28年11月３日、埼玉県加須市と友好都市盟約を締結した。

両市町の交流は続き、加須市騎西の玉敷公園で行われる騎西藤まつりでは、加須市の皆さんへの感謝の気持ちを込めて町長があいさつ、ふたば音頭を披露するなどしている。

いわき市の仮設校舎で学ぶ双葉南・北小と加須市種足（たなだれ）小は相互訪問などを通して交流。それぞれの学校の児童が修学旅行などの機会に互いの学校を訪問してきたが、令和２年度はコロナ禍で中止、その後、オンライン交流会が開かれ、双葉と加須の児童たちが学習の成果を披露し合った。

騎西藤まつり

騎西藤まつりに参加した相馬流れ山踊り保存会＝平成28年４月30日

双葉町埼玉自治会

鯉のぼりの寄贈

加須市から贈呈された鯉のぼり㊨と贈呈式㊤＝平成23年４月７日

市民平和祭

加須市民平和祭で市民と交流する双葉ダルマさん＝平成27年５月３日

種足小学校との交流

メッセージ入り鯉のぼりの贈呈＝令和元年９月26日

オンライン交流会で学習の成果を披露し合う
児童たち＝令和４年１月19日

いかだ乗り、
ボディボードを楽しむ児童たち

いわき海浜自然の家で海浜活動をしながら交流＝令和４年７月14日・15日

国際交流

国際交流が盛んになる中、町は青年や女性を海外に派遣していたが、平成５年には初めて青少年の海外派遣事業「21世紀青春の翼」を実施し、中学生、高校生がニュージーランドを訪問した。平成８年には合併45周年記念事業として「町民の翼友好訪中団」が中国の北京、西安、桂林、上海の各都市を訪れた。参加者たちは、海外での経験を通して国際感覚を磨いたり、それぞれの国の歴史や自然、文化、教育など幅広い知識を身につけた。

21世紀青春の翼

双葉町海外派遣事業

21世紀 青春の翼

感動の8日間

国際感覚を養う

平成五年度の双葉町海外派遣事業「21世紀青春の翼」は、八月三日から十日までの八日間の日程で行われました。

町では七年前から青年、婦人を海外に派遣していますが、青少年は今回が初めて。双葉中生二十人、高校生十人と婦、教育長ら五人が同行しました。

三日、役場前で行われた出発式で岩本町長の激励を受けた後、父母、町職員ら大勢の見送りを受けバスで出発。同日夕、成田空港発の機行機でニュージーランドへ。

リゾート地ロトルア、トンガリロなどを視察、南半球の自然と文化、教育など異文化に接し、団員は驚きの声を上げていました。

ワークワースでは、十三の班に分かれ三日間ホームステイ、国際交流を深めました。

ホームステイの最後の晩にはお世話になったホストファミリーとのサヨナラパーティーを開催。楽しい一時を過ごしました。

また、オークランドでは、マフランギ学校を訪問、バレーボールやバスケットボールで交流を深め、最後にふたば音頭を披露しました。

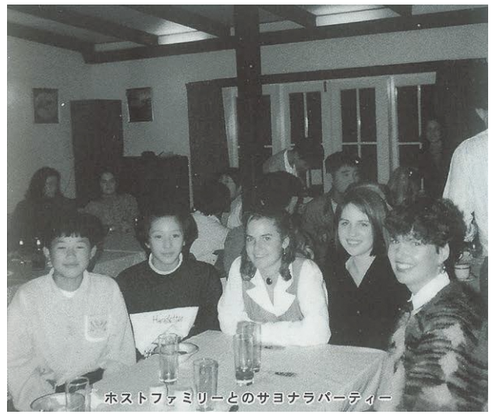
十日夜九時ちょうど、無事帰町し、感動の八日間を岩本町長に報告、舘下教育長、団長の白石徹君がお礼の言葉を述べました。

なお、九月中に報告会をひらき、研修の成果を披露する予定になっています。

▶ 半さんとポーズ

広報ふたば
平成５年９月号

▲ アオランギビークで記念撮影



ホストファミリーとのサヨナラパーティー

広報ふたば　平成５年９月号

双葉町民の翼友好訪中団

国際交流の意義考える

シンポジウムに町民100人

通訳の山口さんら体験談

双葉町が初めて企画した国際交流シンポジウムは、十日、町公民館で開かれた。約百人の町民が出席し、平成一五年度の国際交流事業に協力している通訳の山口千恵子さんの体験談に聞き入った。

住民に国際交流の大切さを考えてもらおうと、双葉町国際交流シンポジウム

岩本栄美町長のあいさつ、けることで生きていく。皆さんのパワーを住民にアピールしてほしい」などと強調した。

に続き、山口さんが「サ、ギかを探へ」の題で基調講演した。学生時代の国内旅行やニュージーランド留学、長期生活の経験を披露、「私は自分の情熱を傾かにつ

国際交流の現状や未来を語ったシンポジウム

学生時代の国内旅行や、ニュージーランド留学、長期生活の経験を披露した。

引き続き山口さんをコーディネーターに、高橋眞紀国際交流協会事務局次長、大井栄子町婦人会双葉の会会長、安井宏明東京電力福島十月に中国訪問を計画している。

長、ダーレン・マクラス英語指導助手の四人をパネリストに迎えパネルディスカッションに移った。「海外から見た町の印象」「外国にどんな情報を伝えていくかなどまぼまなテーマについて意見を交わした。熱心な討論が約一時間続き、参加者は山口さんの軽妙な語りや、ダーレンさんの生の声に耳を傾けていた。

町制45周年で10月に中国訪問

町は昭和六十二年から「婦人の翼」などの海外派遣事業を実施しており、今年で十年目を迎える。町制四十五周年の年にもあることから、記念事業として十月に中国訪問を計画している。

平成８年4月26日付　福島民報

双葉町民の翼友好訪中団

双葉町民の翼友好訪中団

双葉町合併45周年記念事業

10月15日から22日まで北京・西安など訪問

「双葉町民の翼友好訪中団」は、十月十五日から二十二日までの八日間、一行、三十九人で中華人民共和国の北京、西安、桂林、上海の各都市を訪問しました。

出発式は、十月十五日に役場庁舎前で行われ、岩本団長のあいさつの後、家族、町議会議員、多数の見送りを受けて出発、成田空港をたち、空路、第一の訪問先、北京に向かいました。

北京では、月から見える唯一の建造物「万里の長城」、現代の中国を象徴する「天安門広場」などの名所を視察するとともに、代表者が中日友好協会を訪問しました。中日友好協会では、岩本団長が双葉町友好訪中団の来意についてのあいさつを行い、夏永宏副秘書長より暖かい歓迎のごあいさつをいただきました。

現在の中国の経済発展の状況と日中友好の歴史文化など意見交換を行い、今後の両国の友好関係の重要性を確認しました。

西安では、秦の始皇帝の権力の絶大さを今に伝える「兵馬俑坑博物館」、玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスの地「華清池」、シルクロードの出発地である「西の城門」などを視察し、広大で神秘的な西安の歴史、文化に触れることができました。

桂林では、「漓江下り」を体験。奇怪な峰々の連なり、昔ながらの小船で漁をする人々、岸辺から手を振る子どもたち、山水画の景色をゆったりとした美しい流れに乗り、心ゆくまで堪能しました。

上海では、上海市普陀区曹揚新村から熱烈な歓迎を受けました。丁秀媛村長から活力あふれる町づくりについて説明がされるとともに、岩本団長から双葉町の特色について説明を行い、産業経済、教育、高齢者福祉などについて活発に意見交換を行ってきました。

意見交換後、「上海市普陀区中心小学校」を訪問し、意欲的に学ぶ子どもたちの積極で、はつらつとした態度に感銘を受けました。

二十二日夜、家族が出迎えるなか、たくさんの思い出を抱き、全員無事に役場庁舎に到着。岩本団長が八日間の研修を出迎えの方々に報告しました。

▶「万里の長城」を歩く

広報ふたば　平成８年12月号

▶上海市普陀区中心小学校を訪問

広報ふたば　平成８年12月号

スポーツ

双葉高野球部は昭和48年、昭和55年、平成６年と夏の甲子園に３度出場した。昭和55年には逆転で初戦を突破。14年ぶり３度目の甲子園の土を踏んだ平成６年は初戦の２回戦で、和歌山県代表の市和歌山商を１－０で破った。３回戦では優勝候補の一角、樟南（鹿児島県）に１－４で敗れたが、その活躍ぶりに県民が沸いた。双葉高野球部は町民や多くの人たちに感動を与えてきた。平成20年の北京オリンピックでは、自転車競技に町出身の渡邉一成選手、女子サッカーにマリーゼの丸山桂里奈選手が出場。町民が声援を送った。渡邉選手は平成24年のロンドン、平成28年のリオデジャネイロの両五輪にも出場し、避難生活を続ける町民を勇気づけた。大相撲では、町出身で初の関取になった元十両の大日岳が21年間、土俵を務めた。スポーツ少年団では、サッカーやバレーボール、少年野球などの活動が活発である。

福島民報 （日刊） 昭和48年（1973年）8月

双葉高、出直し誓う

"泣くな後輩 来年が…"

第55回 全国高校野球

励ます松本主将

必ず強いチームに

涙で決意、二・二年生

攻守に不運続き

13回 力の広島商、大量点

来年こそ

佐藤大信 村長五選

あふくはゆ

双葉高、広島商に敗れる
昭和48年８月12日付 福島民報

福島民報

第55回 全国高校野球 第1日

初陣の双葉、胸を張り行進

必勝の決意秘めて

緑鮮やかアンダーシャツ

レギュラーは休養

それでも宿舎で素振り

昭和48年８月９日付 福島民報

福島民報 （日刊） 昭和55年（1980年）8月12

双葉 逆転で初勝利

第62回 全国高校野球

◇1回戦川内実（鹿児島）―双葉（福島）

（7時59分、観衆2万）

川内実 001 000 000 | 1
双　葉 000 000 03× | 3

○第4日○

8回一気に長打攻勢

西山、豪快に決勝2ラン

力投遠藤

自ら同点2塁打

川内実を1点に抑える

昭和55年８月12日付 福島民報

甲子園で活躍
双葉高校
野球部

初戦を突破、大喜びで応援団席に向かう双葉ナイン

高校野球 夏の甲子園

○第7日

双葉、初戦を突破

田中、市和歌山商を完封

18日樟南（鹿児島）と対戦

双葉が初戦突破。第七十六回全国高校野球選手権大会七日目は十四日、甲子園球場で2回戦四試合が行われた。十四年ぶり三度目の出場を果たした本県代表の双葉は和歌山県代表の市和歌山商と対戦した。双葉の2回戦は昭和五十五年、1回戦で川内実（鹿児島）に3―1で勝って以来二度目。

スタンドには約二千人の大応援団が詰めつぶ、ナインとともに三万五千人の大観衆の前で双葉の校歌を高らかに歌った。

3回戦の組み合わせ抽選会は十五日午前、同球場で行われ、十八日の第三試合（午後零時四十分開始予定）で樟南（鹿児島）と決まった。

（18・19・23面に関連記事）

平成６年８月16日付 福島民報

TOPICS

― 男子ケイリンの第一人者　渡邉一成選手 ―

北京・ロンドン・リオで力走

2選手が五輪出場　古里から熱い声援

スポーツ選手が世界の強豪とわたり合う舞台・オリンピックに双葉町からは男子自転車競技の渡邉一成選手、女子サッカー競技の丸山桂里奈選手が出場している。

渡邉選手は北京、ロンドン、リオデジャネイロの各オリンピックで男子ケイリン、チームスプリットなどに出場した。東日本大震災翌年の平成24年に開催されたロンドン五輪では、埼玉県加須市の旧騎西高校で避難生活を送る町民が深夜にもかかわらずインターネット中継の映像を見ながら応援した。

リオデジャネイロ五輪

リオデジャネイロ五輪の壮行会で決意を述べる渡邉選手

リオデジャネイロ五輪で力走する渡邉選手を
町のいわき事務所で応援する皆さん

北京五輪

北京五輪に出場した渡邉選手の壮行会（町体育館）

北京五輪自転車 渡辺一成選手の壮行・激励会（双葉南相馬）

古里の応援、走りを後押し

太鼓演奏で鼓舞

質問コーナーや新聞部取材も

渡辺選手に寄せ書きを贈るふたば保育園児ら

二十日に双葉町体育館で開かれた北京五輪自転車競技代表、渡辺一成選手（三四）の壮行会には約六四人の町民らが詰め掛けた。記念撮影などで渡辺選手と触れ合ったほかアトラクションを繰り広げ、町民挙げて地元のヒーローを応援し活躍を祈った。

渡辺選手が所属していた町少年野球クラブのメンバーが渡辺選手に花束を贈呈、井戸川克隆町長、清川泰弘町議会議長、佐久間信司日本競輪選手会福島支部長が激励した。ふたば保育園の園児も訪れ寄せ書きをプレゼントした。

会場では、アトラクションとして町公民館和太鼓教室の子どもたちが出演した。勇壮な演奏を披露し渡辺選手を勇気付けた。また、多くの町民が日の丸に「頑張って」「金メダル獲得」などの応援メッセージを書き込んでいた。

平成20年
6月22日付
福島民報

平成20年の北京五輪に出場した渡邉選手の壮行会は双葉町体育館で開かれ、町民約600人が出席した。町少年野球クラブのメンバーが花束を贈呈、ふたば保育園の園児が寄せ書きをプレゼントするなど子どもたちにとっても、地元からのオリンピック選手誕生は大きな刺激となった。

平成24年のロンドン五輪では、郡山市内のホテルで壮行会が開催された。県内外に避難している町民など約150人が渡邉選手を激励した。被災し避難生活を続けている方々からの熱い応援に渡邉選手は「皆さん辛い思いをしているのに、たくさんの人たちに逆に励ましをもらって代表になれた。双葉町の復興につながるよう頑張る」と決意を述べた。

平成28年のリオデジャネイロ五輪の壮行会はいわき市内で開かれ、県内外から約170人が参加した。伊澤史朗町長らから激励を受けた渡邉選手は「双葉の皆さんにはいつも背中を押してもらっている。今度は自分が皆さんに恩返しをしたい」と語った。

渡邉選手は３度の五輪出場で目指していたメダル獲得はできなかったが、その姿は町民に感動を与えた。

ロンドン五輪

ロンドン五輪に出場した渡邉選手を
旧騎西高校で応援する町民の皆さん

女子サッカーの丸山選手

北京五輪出場 町役場で激励

女子サッカーの丸山選手はアテネ、北京、ロンドンと３度、五輪出場を果たした。北京五輪時は東京電力女子サッカー部マリーゼに所属し、双葉町内に住んでいた。丸山選手は町役場で開かれた激励会で「双葉町をはじめ多くの人たちのおかげで代表に選ばれることができた。皆さんの応援を胸に１点でも多く得点したい」と力強く抱負を述べた。

日本女子サッカーは北京五輪では３位決定戦で敗れ、メダル獲得はならなかったが、双葉町民の丸山選手に古里からも熱い声援が送られた。

丸山が力強く抱負

女子サッカー 北京五輪出場　双葉で激励会

北京五輪の女子サッカーに出場する東京電力女子サッカー部マリーゼFW丸山桂里奈の激励会は11日、丸山が住む双葉町の町役場で開かれた。

北京五輪に向け抱負を述べる丸山選手

町職員、行政区長、町議ら約80人が出席した。井戸川克隆町長が「2度目の五輪出場、町を挙げて応援したい。必ず大活躍してくれることを期待している」、清川泰弘町議会議長が「最高の状態で本番に臨んでほしい」とあいさつ、それぞれ激励金を手渡した。

続いて、西内重夫町行政区長会長が花束を贈った。

丸山は「双葉町をはじめ、多くの人たちの支えのおかげで代表に選ばれることができた。皆さんの応援を胸に1秒でも長く出場し、1点でも多く得点したい」と力強く抱負を述べた。

平成20年7月12日付 福島民報

双葉チーム、東日本大震災の年の「ふくしま駅伝」に
出場し完走
平成23年11月21日付 福島民報

双葉 試練乗り越え完走

選手そろわず参考記録… ベスト尽くし満足

厳しい環境の中も全員が完走を果たし、喜び合う双葉町

男子中学生・シニア区間の3区を高校生が走り、参考記録となった双葉町。選手のやりくりができなかったためだが、記録より参加することが大事だった。昨年完走し、フィニッシュ地点で記念撮影に並ぶ選手らの顔は満足げに輝いた。

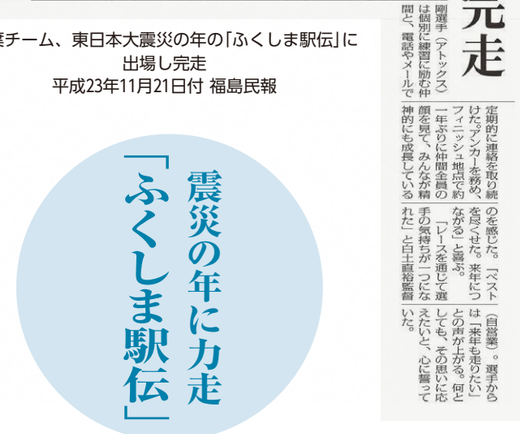
「皆さんの頑張りを思えば、どんな試練にも耐えられる」福島市のホテルで開かれた反省会で、井戸川克隆町長は選手やスタッフに感謝の言葉を贈った。

仲間たちが顔をそろえたのは、この日が初めて。選手は県内外の十数市町に散らばり、結団式も全体練習もできなかった。

主将でコーチの佐藤剛選手（アトックス）は個別に練習に励む仲間と、電話やメールで定期的に連絡を取り続けたアンカーを務め、全力で走ったことを感じた。「ベスト（自覚業）。選手からフィニッシュ地点で約一年ぶりに仲間全員の顔を見て、みんなが精神的にも成長している」と白土真裕監督。

「レースを通して選手の気持ちが一つになれた」と白土真裕監督。

「来年も走りたい」との声が上がる。何としても、その思いに応えたい、と心に誓っていた。



震災の年に力走
「ふくしま駅伝」

東日本大震災の発生から８カ月。平成23年11月の「ふくしま駅伝」に双葉町チームも出場した。選手のやりくりができず参考記録になったが、試練を乗り越えて参加し、見事に完走した姿に多くの県民が感動した。

大相撲で初の関取 大日岳

披露式

大相撲秋場所で大活躍の、双葉町出身新十両大日岳関の化粧回し贈呈披露式が、去る八月二十九日双葉町公民館において行われました。この化粧回しは、清戸廸装飾横穴古墳の日輪と太平洋の波をデザインしたもので後援会会長を務める岩本町長から大日岳関に贈呈されました。

化粧回しの贈呈披露式
広報ふたば　平成５年10月号

第50回町民体育祭 雨の中の熱戦

九月七日、町民グラウンドにおいて、町内十七地区十三チーム約二千七百人が参加し、第五十回双葉町町民体育祭が行われました。

競技は「パートナーさがし」で幕開けし、おなじみの「むかで競争」「綱引き」「ふたりでいっしょ」などの熱戦が繰り広げられました。

当日はあいにくの雨で、グラウンドもぬかるむ最悪のコンディションでしたが、参加者たちは、悪戦苦闘しながらも地区の名誉のためにハッスルしていました。

今年は、総合優勝に下条チームが輝き、優勝旗を手にしました。

参加者の皆さん大変おつかれさまでした。

▲迫力満点（初期消火）

広報ふたば
平成15年10月号

「思い出は貴花田戦」

大日岳（双葉出身）が断髪式

断髪式で玉ノ井親方に大銀杏（おおいちょう）を切り落とされる元十両の大日岳＝10日、両国国技館

大相撲の元十両大日岳（ジュ）＝本名井戸川栄隆、双葉町出身、玉ノ井部屋＝の断髪式が10日、両国国技館内の大広間で行われ、武蔵丸親方（元横綱武蔵丸）、大関栃東ら約230人が別れのはさみを入れた。

初場所から世話人に転向した大日岳。師匠の玉ノ井親方（元関脇栃東）に大銀杏（おおいちょう）を切り落とされ、「思い出は幕下時代に横綱（貴乃花＝当時は貴花田）と6戦全勝同士で対戦できたこと」と感慨深そうに話した。

大日岳は1982年夏場所に初十両を踏み、93年秋場所に十両に昇進。十両には通算3場所在位した。

平成16年２月11日付 福島民報

結成20周年を記念して

― スポ少野球20周年記念大会 ―

九月十二日、双葉町野球スポーツ少年団の二十周年記念野球大会が総合グラウンドで開催されました。

結成二十周年を記念して、他町村との交流をいっそう深めようと開催されたもので、南双葉リーグ加入の五チームに加えて、新地、浪江、小高の三チームを招待して、八チームでのトーナメント戦を行い、熱戦を繰り広げました。

双葉少年野球クラブと広野町の広野ファイターズで決勝戦が行われ、白熱した試合の結果、六対五で広野ファイターズが優勝しました。

成績は次のとおり
①広野ファイターズ（広野町）
②双葉少年野球クラブ（双葉町）
③富岡コンパットジュニア（富岡町）

▲白熱したゲームを繰り広げました

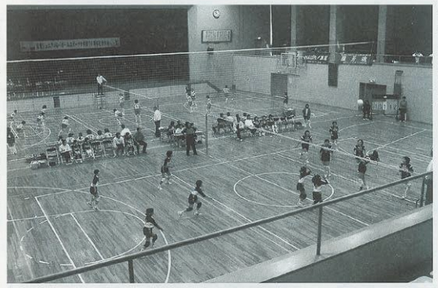
広報ふたば　平成10年10月号

10周年記念バレーボール大会

―双葉ジュニアバレーボールスポーツ少年団―

十一月十一日・十二日の二日間、双葉ジュニアバレーボールスポーツ少年団十周年記念バレーボール大会が双葉中学校体育館を中心に四会場で行われました。

双葉ジュニアバレーボールスポーツ少年団保護者会が主催し、青少年の健全育成とバレーボール技術の向上、参加者相互の親ぼくと交流を目的に行われ、県内のスポーツ少年団二十四チーム、約三百人の子どもたちが参加し、バレーボールで交流を深めました。各ブロックごと予選リーグ戦、決勝トーナメント戦が行われ、子どもたちは熱戦を繰り広げました。



▶白熱したゲームを繰り広げた試合

広報ふたば　平成12年12月号

子どもたち躍動 スポ少で元気に

少年サッカー十周年

双葉町サッカースポーツ少年団結成十周年記念大会が十二月十日と十一日に東京電力福島第一原子力発電所構内のグラウンドで開催されました。

大会には浜通り・中通り各地から十五チームが参加、大会会長あいさつ、来賓祝辞に続き、五つのブロックに別れ、家族、指導者らが見守るなか熱戦を繰り広げました。

開会式では、結成当時から少年団の活動に力を注いでこられた顧問の矢内進さん（新山）と佐藤純一さん（新山）に感謝状が送られました。

▲東電グラウンドでの記念大会

広報ふたば　平成７年１月号

双葉町スポーツ少年野球クラブ 25周年記念交流大会

十月四日、五日の両日、双葉町スポーツ少年野球クラブの創立二十五周年を記念して、県内から野球スポーツ少年団十六チームを招待し、双葉総合公園多目的グラウンドをメイン会場に交流試合が行われました。

開会式では、岩本忠夫町長が「記憶に残るプレーを披露してください」とあいさつしたあと、選手を代表して谷津田淳之主将（双葉町スポーツ少年野球クラブ）が力強く選手宣誓をしました。

試合は、トーナメントで熱戦が繰り広げられ、双葉スポーツ少年野球クラブは決勝で惜しくも敗れたものの準優勝を果たしました。

結果は次のとおりです
①磐崎軟式野球スポーツクラブ（いわき市）②双葉町スポーツ少年野球クラブ（双葉町）③城北コンドルズ（会津若松市）

▲選手宣誓をする谷津田淳之くん

広報ふたば　平成15年11月号

TOPICS

郡山中野海岸整備促進事業

なぎさリフレッシュ事業

郡山中野海岸をうるおいあるなぎさに…

▲認定式　▲現在の郡山海岸

郡山中野海岸が快適で潤いのある海岸線の整備を促進する建設省の「なぎさリフレッシュ事業」に認定され九月十三日、建設省河川局で認定式が行われました。今年度は全国で一市二町が認定を受けました。

広報ふたば
平成６年11月号

双葉の海 観光拠点

バンガロー完成祝う

設備充実 おしゃれな3棟

双葉町の双葉海浜公園に感謝状が送られたあに完成した町の宿泊施設（バンガロー）の落成式が六月三十日、同公園で行われた。

約六十人が出席した。

神事のあと式典で岩本忠夫町長が「町民はもちろん、県内外の多くの人々に双葉の海の素晴らしさを満喫してもらえると期待している」とあいさつした。

地権者の木下弘子さん（浴室、トイレ、洗面台、テレビ、冷蔵庫などを完備し、一棟あたり五人まで宿泊できる。

利用の申し込みは町海の家「マリンハウスふたば」で受け付けている。

一泊あたりの宿泊料は基本利用料が八千円で、利用者一人ごとに大人千五百円、中学生以下千円を加算する。問い合わせは同施設（電話0240（33）3538）へ。

平成16年７月２日付 福島民報

産業・観光

双葉町は農業、工業、商業などの産業、観光で持ち味を生かした振興策に取り組んできた。

農業は高生産性に高付加価値型農業などを推進してきた。「ふたば夢工房企業組合」が平成20年、第48回県農業賞（集団活動部門・農村女性活動の部）を受賞するなど活発な動きがあった。商業では魅力ある商店街の整備などに努めた。工業は地域の発展につながる優良企業の立地を進め、双葉工業団地に平成３年、日東金属工業㈱が操業するなど企業進出が相次いだ。

観光面では、双葉海水浴場が国から数々の優良海水浴場の認定を受けている。双葉海浜公園にバンガローができ、多くの人でにぎわった。

全国に誇る双葉海水浴場

東日本大震災前は町民はもちろん多くの海水浴客でにぎわった双葉海水浴場。これまでに国から“優良海水浴場”として認定されている。

平成10年に旧環境庁が、水質が良好で快適な水浴場として全国55カ所を「日本の水浴場55選」として選定した。双葉海水浴場はその１つに入った。

平成13年に環境省の認定する「日本の水浴場88選」に双葉海水浴場が選ばれた。40都道府県から推せんのあった146水浴場を対象に審査が行われた。双葉海水浴場は家族が安心して楽しめ、駐車場やシャワー、トイレなどの施設が充実している海浜公園があることなどが高く評価された。

平成18年には環境省から快適に泳げる海として「快水浴場百選」に認定された。

日本の水浴場88選

双葉の夏がやってくる

双葉海水浴場「日本の水浴場88選」に認定

双葉海水浴場が環境省の認定する平成十三年「日本の水浴場八十八選」に選ばれ、平成十年、旧環境庁の「日本の水浴場五十五選」に続き、連続で“優良海水浴場”としての認定を受けました。

平成十年に旧環境庁は、水質が良好で快適な水浴場を広く普及することを目的に顕彰制度を設け、その対象となる全国五十五カ所の水浴場を「日本の水浴場五十五選」として選定しました。平成十三年は三年に一度の見直しの時期にあたり、環境省では「快適水浴場検討会」を設置し、新たに見直しを行いました。全国の「遊泳人口が海では約一万人以上、湖・河川では約五千人以上」の水浴場の中から、四十都道府県から推せんのあった百四十六水浴場を対象に、「水質、自然環境、景観」「環境への配慮・取り組みの評価」「安全性」「利便性」などの五項目にわたり審査が行われ、「日本の水浴場八十八選」が決定されました。

双葉海水浴場は、遠浅で波が穏やかなため家族で安心して楽しめることと、隣接して駐車場やシャワー・トイレなどの施設が充実している海浜公園があることと、また、奉仕作業が活発に行われていることなどが総合的に高く評価され選定されました。

みんなで守ろう美しい景観

双葉海水浴場の素晴らしい景観は、一夜にして作られたものではありません。

「日本の水浴場五十五選」に続き「日本の水浴場八十八選」の認定は、これまでの県、町の海岸整備や海浜公園内の公共施設の整備、そしてなによりも双葉海水浴場や海浜公園の利用者に、より快適に利用してもらおうとする皆さんの奉仕活動が認められた証です。平成十二年度には、十七団体（延べ六百三十八人）による清掃作業が展開されています。

これからも、貴重で素晴らしい自然景観を守り続けていくため、町民の皆さんのご協力をお願いします。

広報ふたば　平成13年７月号

快水浴場百選

快適に泳げる海「快水浴場百選」に環境省から県内でただ１つ双葉海水浴場が認定されました。

５月24日、品川プリンスホテルにおいて環境大臣が出席のもと快水浴場百選の認定書交付式が行われ、井戸川克隆町長へ認定書が交付されました。

広報ふたば　平成18年７月号

▲認定書を手にする福島県水環境グループ長澤さんと井戸川町長

双葉海浜公園にバンガロー完成

TOPICS

活力ある産業へ 多彩な施策展開

東日本大震災発生前の双葉町は、「双葉町らしい活力ある産業」を目指して取り組んできた。

農業では、生産性の高い農産物や特産物の開発、情報網を効果的に活用した流通・販売システムの構築などを積極的に推進するとともに、体験農業や貸農園など多角的に農業振興の展開を図ってきた。農業者の高齢化、後継者不足に対応するため農業後継者の育成に努めるとともに女性パワーを十分に生かし自立と活力ある農業を目指してきた。

町の農家の女性たちで組織した「ふたば夢工房企業組合」が平成16年に完成させた農産物加工施設もそうした活力ある農業の確立の一環だった。

工業では、双葉工業団地への企業誘致活動を促進してきた。既存企業の発展のために人材の育成、獲得や企業間交流による技術水準の向上などを支援してきた。

農　業

震災前の稲刈りの様子

盛んだったスイートピーの栽培

工　業

企業誘致を図った震災前の双葉工業団地

ふたば夢工房企業組合

テープカットし施設の完成を祝う関係者

農産物加工施設が完成

惣菜など製造販売

やりがいある農業確立へ

双葉町の農家の女性らで組織する「ふたば夢工房企業組合」が建設を進めていた農産物加工施設の落成式が５日、同町前田の現地で行われた。農産物を加工して付加価値をつけることで価格低迷に対応し、「やりがいのある農業」を確立するとともに、地域の活性化につなげる。

ふたば夢工房企業組合

施設は建物面積約五十五平方㍍、総事業費約千五十万円。

落成式には関係者約三十人が出席した。企業組合の山田恭子代表理事は「待望の完成で、輝かしい希望の光になる。若い農業後継者や地域の人たちに喜んでもらえるよう、衛生面に配慮しながら運営していく」と述べた。来賓の岩本忠夫町長、谷津田光治町議会議長、高山博英県相双農林事務所双葉農業普及所長、高崎幸男ＪＡふたば代表理事組合長、木幡敏郎ふれあいふたば産地直売協議会長が祝辞を述べたあと、テープカットをして施設の完成を祝った。

同町では五年前から、地元農家有志による「ふれあいふたば産地直売協議会」がＪＡふたば営農センターの敷地内で地元で採れた農産物のほか、会員手作りの漬物など加工品を直売。業績が好調なことから加工業務を本格化させようと昨年九月、山田代表理事ら二十人で「ふたば夢工房企業組合」を設立、県の補助を受け施設の建設を進めてきた。

加工施設では当面、モチ、おこわ、団子、惣菜などを製造し、毎週月、水、金曜日に施設で販売する。さらに双葉だるまをイメージした製品を開発し、町おこしにも取り組んでいく方針。

平成16年４月７日付 福島民報

農業技術拠点 営農センター

営農センターが完成

流通情報など提供

双葉町農協

きょう式典

双葉町農協（高崎幸男組合長）の農業技術拠点施設「双葉町農協総合営農センター」と水稲育苗施設の落成式は三十日午後二時から同町長塚の現地で行われる。

両施設は約一・三㌶の敷地に昨年九月から建設を進めていた。センターは鉄筋コンクリート平屋建てで総床面積は約六百平方㍍。コンピューターを導入して病害虫の発生予測や市場流通などの情報を農家に伝えるシステムを備え、特産品の研究開発をする施設も持つ。

水稲育苗施設は約二百五十㌶分の苗をハウス栽培できる施設で、今春から既に使用を開始した。両施設の本体工事は田中建設（双葉町）が請け負った。

落成式には関係者らが出席し、農協組合員の活動の拠点になる施設の完成を祝い合う。

立派に完成した双葉町農協総合営農センター

平成３年５月30日付 福島民報

～双葉町の風景～
ダイサギ（羽鳥地区）

ふれあいふたば産地直売所が営農センター北側にオープン

七月二十五日、ＪＡふたば営農センター北側において「ふれあいふたば産地直売所五周年記念感謝デー、直売所オープン記念セレモニー」が行われました。

オープンに先立ち、木幡敏郎ふれあいふたば産地直売協議会長が「直売所の愛称も決まり、今後さらに安全・安心なものを販売していきたい」とあいさつし、愛称「よってみっせ」の命名者である大和田知恵子さん（長塚二）に表彰状と記念品を贈った後、関係者らによるテープカットが行われました。

詰めかけた大勢の人たちは新鮮な野菜や「ふたば夢工房」より届いた柏餅、まんじゅう、山菜おこわ、漬物などを買い求め、にぎわいを見せていました。

▲ にぎわう直売所

広報ふたば　平成16年９月号

双葉の逸品コンテスト

審査する野崎さん（中央）ら審査員

賞状などを手にする入賞者

５種のジャムなど優秀賞

双葉の逸品コンテスト審査会

第一回双葉の逸品コンテスト審査会は十四日双葉町のヘルスケアーふたばで開かれ、町食生活改善推進協議会が開発した五種類のジャムなど五点が優秀賞に輝いた。福島民報社賞には井上美恵子さんのスイーツ「おやきでげんき」が選ばれた。

4部門に秀作104点

町商工会（双葉の逸品・逸材発掘プロジェクト委員会）が、町民から地元産の食材や材料を使った料理、加工品、工芸品のアイデアを募って町の特産品として売り出そうと初めて企画。創作料理、スイーツ、工芸品、加工品の四部門に計百四点が出品された。

古殿町生まれで県ブランド認証委員などを務め東京の日本料理店「分とく山」総料理長の野崎洋光さんを委員長に、川俣町出身で東京のフレンチレストラン「ラ・プランシュ」オーナーシェフの田代和久さんらを審査員として迎えた。審査員は各メニューを試食しながら厳正に審査し点数を付けた。

表彰式では田中清一郎町商工会長があいさつし、農業局長、井戸川克隆町長が祝辞を述べた。野崎さんが審査結果を発表し、この作品もレベルが高く審査が難しかったと講評した。井上さんには福島民報社から賞状と盾が贈られた。受賞作品は次の通り。

◇優秀賞▽町食生活改善推進協議会＝かぼちゃクリーム、トマトジャム、人参ジャム▽さつまポテクリーム、柿ジャム＝ふたば夢工房企業組合＝たるおやき▽大塚康江＝ブルーベリーこぶ▽小川貴永＝はちみつシュウガジャム▽平野みのり＝ライスみそ風味ビッツァ

◇岡・高校生以下の部▽今野美佳、新妻絵里（双葉高）＝いちごバリーモンブラン▽千代田明奈、岩川客奈、猪井香穂（双葉中）＝ブルーベリーシボンケーキ

◇審査員特別賞▽井上美恵子＝とうがらしジャンジャン▽西内テーラ＝ごまの実けの実▽鮫島伸子＝みそ・ちゃこクッキー▽富本吉夫＝木の恩セット◇福島民報社賞▽井上美恵子＝おやきでげんき◇福島民友新聞社賞▽高崎丈＝カイクリームコロッケ

平成22年11月18日付 福島民報

行政システムの変革

町の行政システムは国や県などの動きに合わせて順次、変革してきた。平成６年６月に住民基本台帳電算記録システムが稼働した。平成12年に町情報公開制度がスタート。平成13年に戸籍事務が電算化。平成15年に住民基本台帳ネットワークの第２次サービスが始まった。路線バスの廃止に伴い、遠距離通学の児童を主とした代替バス・タクシーを運行する新交通システムが平成15年11月に動き出した。

住民基本台帳

住民基本台帳 電算記録システム始動

住民登録や住民票の発行などを電算化した、住民基本台帳電算記録システムの始動式が、六月三日役場住民福祉課窓口で行われました。

住民基本台帳の情報を電算記録化することで、住民票の発行や住民異動の処理が迅速に行われ、一層の住民サービスの向上が期待できます。

▶電算出力の住民票を交付

広報ふたば　平成６年７月号

住基ネット第２次サービス

住民基本台帳ネットワークシステム 第２次サービスが始まります　8月25日から

本年８月25日から、住民基本台帳ネットワークシステム（通称「住基ネット」）の第２次サービスが始まります。

第２次サービスでは、希望者のみに高度のセキュリティ機能を備えたＩＣカード「住民基本台帳カード（住基カード）」が交付（有料）されることによって、次のようなサービスが可能になります。

住民票の広域交付

現在、住民票の写しの交付は、住んでいる市区町村でしか受けることができませんが、全国どこの市区町村でも、住基カード、運転免許証等を窓口で提示することによって本人や世帯の住民票の写し（戸籍の表示を省略したもの）の交付が受けられます。

転入転出手続の簡素化

現在、引っ越しをされる場合は、まず住んでいる市区町村に転出届を提出し、転出証明書の交付を受けてから、引っ越し先の市区町村に転入届を提出しなければなりません。

住基カードの交付を受けている場合は、確実な本人確認ができるため、一定事項を記入した転出届を住民登録地の市区町村へ郵送等で行い、住基カードを引っ越し先の市区町村の窓口で提示して転入届を行うことにより、時の一回だけで済むようになります。

住基カードの交付申請

住基カードの交付を希望する場合は、八月二十五日以降に次のものを役場窓口へ持参し、手続をしてください。

【交付申請時に必要なもの】
・写真一枚
（縦四・五㎝×横三・五㎝）
※写真付きを希望する場合に限ります。
・印鑑

【カードの交付】
職員が、運転免許証等（写真付きの官公署が発行した証明書等）で本人を確認します。
確認後、申請者が四ケタの暗証番号の設定を行った後、カードを交付します。

【手数料】一件五百円

▶住民基本台帳カードのイメージ

個人情報保護（セキュリティ）対策はどうなの？

①保有する情報や利用目的を法律で限定しています。

住基ネットが保有する情報は、住所、氏名、性別、生年月日の四情報と十一ケタの住民票コードです。

②住民票コードは利用が限定されています。

民間が利用することは禁止されており、行政においても具体的に法律で限定されます。

③外部からの侵入と内部の不正利用を防止しています。

専用回線、暗号化などによりセキュリティに万全を期しています。万が一の場合にはシステムを停止するなど個人情報保護を最優先に運営します。

【問い合わせ先】
住民課戸籍年金係
☎３３－２１１１内線２１１

広報ふたば　平成15年８月号

情報公開制度

開かれた町政を目指して

4月1日スタート 双葉町情報公開制度

四月一日から情報公開制度がスタートしました。この制度は、町が保有している情報を公開することにより、町政に対する理解と信頼を一層深めていただくために設けられた制度です。情報公開制度の概要についてお知らせします。

情報公開制度の目的

町の管理する公文書を公開することにより、町のさまざまな活動状況を明らかにして、町民参加の公正な開かれた町政を推進することが目的です。

情報公開する機関

町の機関（町長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、農業委員会）で行われます。

請求できる情報

制度の対象となる情報は、町の職員が職務上作成し、または取得した情報（文書、図面、写真など）で町が管理しているものです。

公開の対象となっているもの

・平成十一年四月一日以後に決裁（文書の可否を決めること）などの手続きが終了し、管理している「公文書」
・平成十一年三月三十一日以前の公文書のうち、「永年保存文書」
※公開の対象となっていない平成十一年三月三十一日以前の永年保存文書以外の公文書は、任意公開制度によって公開を受けることができます。

公開されないこともある情報

請求された情報は、公開が原則ですが、法令などで公開できないとされているものや、個人のプライバシーに関する情報などについては、公開できない場合があります。

請求できる方

次の方が請求できます。
・町内に住所を有する方
・町内に事務所、事業所を持つ方や法人、団体
・町内の事務所、事業所などに勤務する方
・町内の学校に在学する方
・そのほか、町と利害関係を有する方

請求の窓口

総務課に設置されています。総務課が情報の公開についての相談に応じ、情報の有無を確認します。

広報ふたば　平成12年４月号

個人情報保護法

あなたの個人情報が悪用されないために……。
４月１日から個人情報保護法が全面施行されます

●だれもが安心してＩＴ（インホメーション・テクノロジーの略称＝情報通信技術）社会の便益を享受するための制度的基盤として、15年５月に成立、公布された個人情報保護法が17年４月１日から全面施行されます。

●個人情報取扱業者は、個人情報の利用目的を明らかにし、その範囲内で取り扱わなければなりません。また、本人の同意を得ずに個人データを第三者に提供することは原則禁止されるほか、安全管理措置、従業者や委託先の監督など個人情報の適正な取り扱いに関するルールが適用されます。

●自分の個人情報については、事業者に開示等を求めることができます。また、個人情報に関するトラブルや疑問については、その事業者に申し出るほか、認定個人情報保護団体や地方公共団体、国民生活センターの苦情相談窓口などでご相談いただけます。

［問い合わせ先］
企画課広報広聴係
☎３３－２１１１内線２７１
※内閣府国民生活局ホームページ
http://www5.cao.go.jp/seikatsu/kojin/index.html
で詳しい内容を見ることができます。

広報ふたば　平成17年４月号

戸籍事務電算化

戸籍事務電算化稼動式

九月十日、戸籍事務電算化稼動式が役場住民課窓口で行われ、コンピュータによる戸籍事務がスタートしました。

戸籍事務の電算化は、原本の紛失、破損の防止、届け出の速やかな処理、証明書発行のスピードアップなど住民サービスの向上を目的に、平成十三年二月から作業が進められてきました。

式では、岩本町長があいさつ、丸添町議会議長、東海林福島地方法務局平支局長の祝辞の後、窓口の前でテープカットして戸籍電算化システムの稼動を祝いました。

◀テープカットする関係者

広報ふたば
平成13年10月号

TOPICS

住民交流・生涯学習の拠点誕生

地域住民が交流したり、生涯学習の場となる公民館の整備が平成９年から平成19年までの10年間に進んだ。平成９年に下長塚、平成14年に長塚二、平成15年に郡山、平成16年に新山、平成18年に石熊、平成19年に両竹の各公民館が建設された。いずれも旧公民館の老朽化に伴い、住民から建て替えの要望が出ていた。

テープカットなどで完成を祝った。

新交通システム

双葉の新交通システム
まちタクシーと通学バス

「地域の足」に高まる期待

運行スタート祝う

四日に双葉町で始動した「まちタクシー」と通学バスの一般利用を組み合わせた新タイプの交通システムは、商店街の活性化や高齢者福祉の向上など、さまざまな効果が期待されている。

試乗走行に出発するまちタクシーとバス

出発式はステーションプラザふたばで行われ、運行委員会副会長の奥山修司福島大経済学部教授がこれまでの経過を説明したあと、岩本忠夫町長が「商店街の空洞化をなくし、少子高齢の時代を乗り切りたい」とあいさつした。

田中清一郎町商工会長は「商店街に元気がなければ町もいい方向を向いてこない。交通弱者を助けて活性化を図りたい」と期待感を示し、岩城光英参院議員、谷津田光治町議会議長、三谷泰久東北運輸局交通環境部長が祝辞を述べた。愛称を考案した秋元幸市さんと石井恒さんには記念品が贈られた。

引き続きステーションプラザ前で岩本町長、田中会長らが紅白のテープを切った。

タクシー情報センター
中心商店街に開設

新交通システムは、まちタクシーと通学バスの二本立て。まちタクシーは小高、保険、渡江の各町が導入、さらにスクールバスの一般利用は西会津町が実施しているが、双方を一緒に運行するのは全国初の試みという。

まちタクシーは「ふたばふれあいタクシー」の愛称で、町商工会が運行主体。町内を四つのエリアに分け、電話予約で自宅から町内の目的地まで乗り合いタクシーで送り届ける。

中心商店街には電話連絡を専門に受け付ける「まち情報センター」が開設され、待ち合いスペースも整備された。タクシーの利用は登録制。利用の仕方の詳細は町の広報誌十一月号に掲載されている。

一方、通学バスは従来の路線廃止に伴って町が運行する。四十人乗りの中型バスなどを町内二つの小学校の登校日に走らせる。路線は四系統で、それぞれ停留所を設けて一般も利用できるようになっている。

商店街に開設された情報センター

平成15年11月６日付 福島民報

新交通システム始動 双葉

新交通システム始動を祝ってテープカットする関係者

タクシー、バス並行運行

双葉町で四日、町内を乗り合いタクシーで巡る「まちタクシー」と通学バスの一般利用を組み合わせた新タイプの交通システムが始動した。まちタクシーは小高町など、スクールバスの一般利用は西会津町が実施しているが、双方を並行して運行するのは全国初の試み。

まちタクシーは「ふたばふれあいタクシー」の名称で、町商工会が運行主体となる。町内を四エリアに分け、電話予約によって自宅から町内の目的地まで乗り合いタクシーで送り届ける。

通学バスは従来の路線廃止に伴って町が運行する。四十人乗りの中型バスなどを町内二つの小学校の登校日に走らせる。四系統で、停留所を設けて一般利用も可能。

出発式はステーションプラザふたばで行われ、岩本忠夫町長、田中清一郎町商工会長らがテープカットし運行開始を祝った。

平成15年11月５日付 福島民報

下長塚公民館

新しい公民館が完成
（下長塚公民館落成式）

▶落成を祝いテープカット

新築工事が行われていた下長塚公民館が完成し、二月九日、関係者約百人が出席して落成式が開催されました。

岩本町長、木幡町議会議長、黒木行政区長ら関係者がテープカットを行った後、式典を行い町長らが祝辞を述べ完成を祝いました。

新しい館内は食堂、会議室などのほか、車いすでも利用できるようスロープが設置されるなどの工夫がされています。

広報ふたば
平成９年３月号

光ファイバー開通式

高速通信網 整備祝う
双葉 光ファイバー開通式

テレビ電話 記念通話

双葉町の光ファイバーネットイベントとして、井戸川町長がNTTを使ったテレビ電話で東日本―福島の担当者とフレッツフォン開通式は二日、町役場で行われ、関係者が高速通信網の整備を喜び合った。

町職員らが出席。井戸川克隆町長が「高速インターネットへの接続は、行政政策にも大きな影響を与える。多くの町民にも活用してほしい」とあいさつした。施工者の三和千之東日本電信電話福島支店長、清川泰弘町議会議長が開通を祝った。

井戸川町長、三和支店長、清川議長がテープカット。続いてインターネットを使ったテレビ電話で記念通話した。高岡町などの様子をウェブカメラで映し出し、出席者は利便性を実感していた。

光ファイバー網は、町内全域の総延長約七十一キロで整備。工期は昨年十一月十二日から今年二月十九日で、工事費は約一億五千万円。電源立地地域対策交付金を充てた。

テープカットする（左から）三和支店長、井戸川町長、清川議長

テレビ電話を体験する井戸川町長

平成21年３月４日付
福島民報

長塚二公民館

長塚二公民館
落成式

▶テープカットする関係者

長塚字越田地内に建設が進められてきた長塚二公民館が完成し、三月二十九日、落成式が行われました。

長塚二公民館は木造平屋建てで、三十五畳の大広間のほか八畳の和室、調理室などを備え、身障者トイレやスロープ、段差のない室内などバリアフリーに配慮した造りとなっています。

落成式では、関係者がテープカットした後、岩本町長が「新しい公民館を拠点に人と人との触れ合いを深めて欲しい」とあいさつ。丸添町議会議長の祝辞に続き、野村和男長塚二行政区長が地区住民を代表し謝辞を述べました。

また、四月十三日には長塚二行政区が主催する公民館落成祝賀会が行われ、隣組長らが出席し、公民館の完成を祝いました。

◀祝賀会であいさつする野村行政区長

広報ふたば
平成14年５月号

住民交流・生涯学習の拠点誕生

郡山公民館

新山公民館落成式

新山字北広町地区に建設が進められてきた新山公民館が完成し、十二月十二日落成式が行われました。新山公民館は福島県市町村電源立地地域対策交付金を活用して整備したもので、木造平屋建てで、十二畳と十五畳の和室の会議室と二十七畳の洋室・調理室などを備え、身障者トイレやスロープ、段差のない室内などバリアフリーに配慮した造りとなっています。

落成式では関係者がテープカットした後、岩本忠夫町長が「新しい公民館を生涯学習の拠点として、また地域の交流の場として大いに利用してほしい」とあいさつ。地権者や施工業者らに感謝状が贈られ、町から新山行政区へ鍵が手渡されました。

続いて、谷津田光治議長が祝辞を述べ、高野一美新山行政区長が地区住民を代表し謝辞を述べました。

落成式終了後新山行政区の主催で祝賀会が行われ、公民館の完成を祝いました。

広報ふたば　平成17年１月号

新山公民館

生涯学習の新拠点完成

双葉の郡山公民館で式典

双葉町郡山地区で建設が進められてきた郡山公民館が完成し三月三十一日、現地で落成式が行われた。

同館は木造平屋建てで、電源立地特別交付金を活用して整備された。五十五畳の集会室のほか十畳の会議室、調理室などを備へ、身障者用トイレやスロープ、段差のない室内などバリアフリー化に配慮している。

式ではテープカットのあと、岩本忠夫町長が「生涯学習の拠点として大いに活用し、人と人との触れ合いを深めてほしい」とあいさつした。地権者や施工業者に感謝状を贈ったあと、町から郡山行政区に鍵が引き渡され、区長が「子供から高齢者まで集う地区の交流の場」と意義を表した。

テープカットする関係者

完成した郡山公民館

平成15年４月３日付
福島民報

石熊公民館

住民交流の拠点完成

双葉 石熊公民館で落成式

高齢者に優しい造り

双葉町が建設を進めていた石熊公民館の落成式は十二日、現地で行われた。

完成を祝いテープカットする井戸川町長ら

新築された石熊公民館

約百人が出席した。井戸川克隆町長と谷津田光治町議会議長、山本三喜雄石熊行政区長らがテープカットしたあと、井戸川町長が「生涯学習や地域交流の場として大いに利用してほしい」とあいさつした。

高野利彦町公民館長の経過報告に続き谷津田議長が祝辞、山本区長が謝辞を述べた。西内忠正町議会副議長の音頭で乾杯し、待望の施設完成を祝った。住民主催の祝賀会も開かれた。

旧石熊公民館は昭和四十三年に建設されたが老朽化し、住民から新築を求める要望が出されていた。

新しい公民館は木造平屋建てで、延べ床面積は約百五十平方㍍。建築費は約二千二百四十三万円。

三十五畳の集会室と八畳の会議室、十畳の調理室などを整備した。身障者用トイレやスロープも設けるなど、バリアフリーに配慮した造りになっている。

平成18年３月18日付 福島民報

両竹公民館

テープカットし完成を祝う関係者たち

両竹公民館の落成祝う

双葉 関係者がテープカット

双葉町が整備を進めていた両竹行政区の両竹公民館の落成式は十二月二十八日、同町両竹の現地で行われた。地域住民ら関係者たちが施設の完成を祝った。

町や議会関係者ら約五十人が出席した。テープカットのあと式典が行われ、井戸川克隆町長が「地域の皆さんが集う場として大いに活用してほしい」とあいさつ。小会議室のほか調理室も設けた。

平成20年１月５日付
福島民報

医療・福祉・児童・運動…. 各施設が完成

町内には、医療や福祉、町民交流、子どもたちの施設、運動施設などが続々と完成した。平成10年にコミュニティーセンター「ステーションプラザふたば」が整備された。平成11年に総合保健福祉施設「ヘルスケアーふたば」がオープン。デイサービスセンターも開所した。平成17年には、中心商店街に「ひと休み処」、特別養護老人ホーム「せんだん」と高齢者グループホーム「せんだんの家」、町内初の公式野球場などが出来上がった。

双葉厚生病院 医療の中核に

来秋、小児科を新設

双葉厚生病院　増改築の起工式

双葉郡内の地域医療の中核、双葉厚生病院（赤荻宏也院長）の増改築工事の起工式が（二十八日午前十一時半から行われ、小児科が新設される来年秋、救急医療の充実などになった。

双葉厚生病院は県厚生連が昭和四十二年八月に開院した。現在、内科はじめ外科、整形外科、精神科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科を診療科目に、県立大野病院（大熊町）などとともに地域医療の中心的な役割を果たしている。病床数は二百七十九床。

起工式には約八十人が出席。双葉町の初発神社の高倉洋尚宮司が祝詞をあげるなど、神事を行い、佐藤喜春県厚生連会長（県農協連会長）らがクワ入れし、神前に玉ガシを供えてご事の無事と安全を祈願した。

現在の病院の東側に棟続きで鉄筋コンクリート二階建て、延床面積約三千二百平方㍍の病棟棟などを建設する。総工費は八億円に上り、前田建設工業仙台支店が本体工事を請け負う。

新しい病棟は来年八月（ろろまでに完成、従来の病棟内の改築を行うため、すべて終了するのは同年十一月下旬になる見込み。同病院で九つ目の診療科目となる小児科は来年九月ごろから診療をスタートする予定だ。

双葉厚生病院の増改築による診療体制の充実は地域住民にとっても朗報となっており、一日も早い使用開始が待ち望まれている。

小児科が新設される双葉厚生病院

起工式でクワ入れする佐藤喜厚生連会長

平成元年11月30日付 福島民報

町民の要望が実った 双葉厚生病院

昭和二八年に、標葉町は病院誘致のために約三反歩を購入したものの、病院建設は一時中断していました。そして昭和三八年、町民および双葉郡内の要望は次第に高まり、昭和三九年誘致期成同盟が発足、農協関係各機関による要請運動をもって、種々の困難を乗り越え、設置の決定に至りました。

開院は昭和四二年八月六日。内科、呼吸器科、外科、リハビリテーションセンター、未熟センター（産婦人科、小児科）、精神神経科眼科、整形外科を置き、当地方の公的病院として、住民の診療に当たっています。

また、機能充実のために、昭和五四年七月管理診療棟の増改築工事が完成し、病床数五〇床の増加で、公式ベッド二五四床を有する一大病院となり地域住民の健康を守っています。

●市町村別利用状況（54年度）

区分	外来	入院	計
双葉町	16,308人	16,606人	32,914人
双葉郡内（双葉町を除く）	22,941	49,545	72,486
相馬郡内	2,884	11,884	14,768
原町市	688	3,772	4,460
相馬市	149	2,851	3,000
いわき市	217	5,322	5,539
県内	806	3,135	3,941
県外	659	2,579	3,238
計	44,652	95,694	140,346

（厚生病院）

●職員の状況（55年８月現在）

医師	7人
看護婦	70
技術員	16
事務員	13
技労員	26

●双葉町の診療機関

○双葉厚生病院
○半谷医院・冨沢医院・石田医院・石川医院・田中医院
○川崎歯科医院・高原歯科医院・松本歯科医院
○横山耳鼻咽喉科医院

42年８月の双葉厚生病院落成開院式

近代設備も整った厚生病院入口

躍進　双葉町合併三〇年のあゆみ

医療・福祉・児童・運動…… 各施設が完成

ステーションプラザふたば

ステーションプラザふたば オープン

10月6日に落成式

整備を進めていました双葉町コミュニティーセンター（愛称）「ステーションプラザふたば」が完成し、十月六日に落成式を同施設で行いました。

施設前で岩本町長らによるテープカットが行われた後、かねてから時計の始動のスイッチが押されました。

施設内のハイビジョンシアターで行われた式典には、約百二十名が出席、岩本町長が「今後も町民が親しめるようなコミュニティーの場として活用してほしい」と式辞を述べました。

また、施設の愛称募集で入選した鈴木康弘君（双葉中一年）ら三名が表彰され、また施設建設に関係した方々に感謝状が贈られました。

続いて、陽田県相双地方振興局長、佐藤町議会議長、東海林JR東日本取締役水戸支社長が祝辞を述べました。

式典終了後、多目的ホールにおいて祝賀会が行なわれました。

▶ハイビジョンシアターで行われた式典

◀関係者によるテープカット

▲式典終了後の祝賀会

広報ふたば　平成10年11月（2）

広報ふたば
平成10年11月号

ヘルスケアーふたば

健康長寿を願う福祉の拠点

双葉町総合保健福祉施設（Aブロック）
ヘルスケアーふたば●4月1日オープン●

双葉町健康長寿の町づくり事業の一環として、平成9年度から建設を進めてまいりました「双葉町総合保健福祉施設（Aブロック）ヘルスケアーふたば」が、いよいよ4月1日にオープンします。

《施設の概要》

★健康増進部門

・アクアエリア（プール、ジャグジー等）
・トレーニング室
・リラクゼーション室
・診察室
・調理実習室
・各種成人病検診、乳幼児健康診査、栄養指導、運動指導、予防接種、健康教室等を実施します。また、個人の健康管理の場としても利用できます。

▶運動浴プール

★福祉推進部門

・デイサービスセンター
・在宅介護支援センター
・双葉町社会福祉協議会
おおむね六十五歳以上の在宅で身体が虚弱、寝たきり、痴はうのお年寄りの方に入浴サービス、日常動作訓練、給食サービス等を行います。
また、家族等家庭での介護者の相談に応じます。

▲デイサービス（機能回復訓練室）

▲デイサービス内浴室（2階）

★教養娯楽部門

・視聴覚図書室
・会議室
・娯楽室
パソコン、ビデオ、書籍等を介して、保健、福祉や趣味の学習、情報の収集など生きがいづくりのための支援をします。

▲娯楽室（2階）

※お問い合わせは、役場保健福祉課（☎三二一二一）内線二三まで。
なお、利用の方法、料金等詳細につきましては広報ふたば四月号でお知らせする予定です。

広報ふたば
平成11年３月号

利用者10万人達成

四月四日、ヘルスケアーふたば（双葉町総合保健福祉施設）の入館者が十万人を達成、同月五日、利用者十万人達成記念式典が同施設エントランスホールで行われ、十万人目となった玉川洋子さん（小高町）と施設利用六百回を数える最多利用者の眞柄正さん（下条）に岩本町長から記念品と花束が贈られました。

玉川さんは、プールでのトレーニングを目的に週三、四回のペースで利用し、眞柄さんは、ほぼ毎日施設を利用し、健康増進に努めているそうです。

— ヘルスケアーふたば —

▶（前列左から）玉川さん、岩本町長、眞柄さん

広報ふたば
平成14年５月号

子どもら楽しく

新児童館が開館

新しい児童館できた　双葉町
入館の107人歓声
図書室や運動場備える

双葉町の新しい児童館の落成式と入館式が十日、行われた。老朽化による館が完成、入館する百七人の歓声が真新しい建物に響いた。

式では、岩本忠夫町長が工業建設（浪江町）に感謝状を送べ、西崎国雄助役が事業概要を報告した。工事務所（いわき市）、東北児童の名前を呼び上げ、西内隆夫館長があいさつした。

大井誠町議会議長、横山蔵人県議、天口利夫県相双社会福祉事務所長が祝辞を述べ、五人の職員を紹介した。引き続き、玄関で岩本町長や児童代表がテープカットし、落成を祝い合った。

児童は早速、新しい建物の中で、元気に遊んでいた。

児童館は以前の建物が老朽化したことなどから、新たに町の図書館や町民グラウンドのある町の中心部に建設した。木造平屋建て、三百九十四平方㍍で、集会室、遊戯室、静養室、図書室などを備えている。このほか、旧町民体育館の遊戯室や運動場を備えている。約九千八百八十五万円をかけた。

完成した新しい児童館

新児童館でくつろぐ子供たち

平成６年４月12日付 福島民報

デイサービスセンター

デイサービスセンター開所式

四月五日、ヘルスケアーふたば（総合保健福祉施設）でデイサービスセンター開所式が行われました。

式では岩本町長、利用者代表がテープカットした後、双葉高校と双葉翔陽高校のボランティアから利用者に花束が贈られました。この後、利用者はボランティアや寮母の介助を受けながら、給食や入浴などのサービスを受け、和やかな楽しい一日をすごしました。

デイサービスセンターでは、体が弱く自宅にこもりがちなお年寄りや寝たきりのお年寄りに、入浴、給食などのサービスを提供し、社会的孤立感の解消や心身機能の維持向上などを図り、また介護している家族の身体的、精神的な負担の軽減のための各種事業を実施しています。

詳しくは、ヘルスケアーふたば内デイサービスセンター（☎二三一〇三三）にお問い合わせください。

◀高校生ボランティアから花束を受ける利用者たち

広報ふたば　平成11年５月号

TOPICS

医療・福祉・児童・運動・・・・各施設が完成

特別養護老人ホームせんだん

双葉の「せんだん」「せんだんの家」

福祉向上へ竣工祝う

双葉町の特別養護老人ホーム「せんだん」と併設の高齢者グループホーム「せんだんの家」（しゅんとう）式は二十六日、同施設で行われた。

関係者約二百人が出席した。施設前でテープカットが行われたあと、設置主体のふたば福祉会の西崎国雄理事長があいさつ。来賓の鈴木敏県高齢保健福祉グループ参事、馬場有県議、岩本忠夫町長、谷津田光治町議会議長が祝辞を述べた。

「せんだん」は鉄筋コンクリート二階建で定員は少子八十人。「せんだんの家」は鉄筋コンクリート平屋で定員九人。いずれも入所者を少人数ごとに介護する完全個室の「ユニットケア」タイプになっている。両施設の延べ床面積は約六千五百平方メートル、総事業費は約八億八千三百万円。

同施設では二十日まで内覧会を実施している。問い合わせはふたば福祉会西崎国雄理事長方、電話0240（33）5011へ。

テープカットし施設の完成を祝う関係者たち

平成17年10月27日付 福島民報

高齢者福祉 新たな拠点

双葉 しゅん工の特養「せんだん」

全室個室を導入

プライバシーにも配慮

1日に開所

二十六日、双葉町で行われた特別養護老人ホーム「せんだん」などのしゅん工式では、町内外の関係者約二百人が施設の完成を祝った。

テープカットの後に行われた式典では、設置主体のふたば福祉会の西崎国雄理事長が「施設介護への要望は高まっており、常に思いやり優しさを念頭に施設を運営していくこと」あいさつした。

事業経過報告に続き、田中・佐藤特定建設工事共同企業体（JV）などと、事業の請負企業と施設用地の引き渡しが行われた。

協力者に対し感謝状が手渡された。式典終了後、出席者たちは施設内を見学した。

同施設と併設のグループホーム「せんだんの家」は、利用者のプライバシーに配慮するとともに、きめ細かな介護を実現するため全室個室の「ユニット（小集団）ケア」を導入している。

利用者の入所前の生活習慣を尊重する観点から、家具などの持ち込みも可能だ。各ユニットの中央には食堂を兼ねた共同生活室もあり、利用者同士はもちろん介護する職員とのコミュニケーションの場として活用される。

施設開所は十一月一日から。今月三十日まで内覧会を実施している。見学は午前九時から午後四時まで。

問い合わせはふたば福祉会（電話0240（33）5011へ。

待望の施設の完成を祝う関係者たち

特別養護老人ホームせんだんの外観

平成17年10月28日付 福島民報

双葉総合公園野球場も誕生

紅白のテープにはさみを入れ、完成を祝う関係者

町内初の公式野球場完成

双葉 スポーツ振興の拠点に

テープカットし祝う

双葉町が建設を進めていた双葉総合公園の野球場が完成、竣工（しゅんこう）式が二十九日、現地で行われ、関係者約二十人が出席した。町内初の公式野球場の誕生を祝った。

竣工式には約五十人が出席した。岩本忠夫町長が式辞を述べたあと相川允良町議会議長、谷津田光治町議会議長が祝辞を贈り、テープカットが行われた。

引き続き、アトラクション（出し物）として地元の名門・双葉高と田村高の招待試合が行われた。岩本町長の始球式のあとプレーボールで、選手たちの元気な姿に観客席からの大拍手が送られた。

双葉総合公園は国庫補助を受けて平成五年から整備が始まり、野球場は多目的グラウンド、テニスコートに次ぎ三番目の完成となる。事業費は約二億七千五百万円。

使用料は一チームにつき一時間当たり中学生以下一百円、高校生三百円、一般五百円。放送設備とスコアボードは一回につき千円。問い合わせは窓口を受け持つ双葉ふれあいクラブ（電話0240（23）0220）へ。

観客席など順次整備

双葉町の中心商店街の一角に空き店舗・活性化対策として整備を進めていたコミュニティースペースが、「ひと休み処（どころ）」と命名され、一日、同町新山の旧六号国道沿いにオープンし、関係者が新たなスポット誕生を祝った。

式典には約四十人が出席した。岩本忠夫町長、谷津田光治町議会議長、一条流、いこいの場づくり推進委員会の佐藤ヨシ子委員長らが祝辞を述べたあとテープカットし、まちタクシーの待合所として利用してほしい、これを機会に街中がにぎわい、地域の活性化につながることを期待するとあいさつ。谷津田議長、田中清光町議会議長、田中一郎町商工会長らが祝辞を述べたあとテープカットし開所を祝った。

施設は木造平屋建で広さ約四十五平方メートル。総事業費は六百二十六万円。エアコンやテレビ、ミーティング用のテーブルが備えられており、展示会やバザーなどのイベントにも利用が可能。車いすの人も気軽に利用できるよう、広いトイレも整備した。

同町の中心商店街は旧六号国道に沿って南北に広がる。正年、空き店舗が目立つようになり、町は平成十五年、北側の長塚地区の空き店舗に第一号の「ひと休み処」をオープンさせたが、南側の新山地区からも「クラブコール」が寄せられ、設置した。

南館の利用時間は土、日、祝日を除く平日の午前八時半から午後五時まで。午後五時までに延長されて、これまで午後三時までだった長塚地区の「ひと休み処」の利用時間も2331へ。

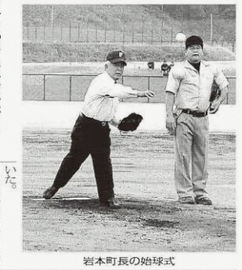
テープカットし開所を祝う岩本町長ら

空き店舗をいこいの場に

「ひと休み処」南館開所

双葉

平成17年
4月3日付 福島民報



岩本町長の始球式

平成17年10月31日付 福島民報

商店街に活力「ひと休み処」

TOPICS

原始～現代まで町の貴重な資料一堂に

町歴史民俗資料館が完成

原始からの「双葉」一目で

完成した双葉町の歴史民俗資料館

きょう記念式典

一般開放はあすから 8日まで無料

双葉町が建設を進めていた町歴史民俗資料館が完成し、二日午前九時半から竣成記念式典が行われる。一般開放は三日から、八日まで開館を記念して、無料で開放する。

資料館は町民グラウンドのわきにあり、鉄筋コンクリート平屋建て千二百四十五平方メートル。総事業費五億七百二十三万円をかけて、平成二年六月から工事を進めてきた。建築主体工事は東北工業建設（浪江町）が請け負った。

常設展示室には、原始、古代、中世、近世、近代、現代の各資料を展示した。特に古代のコーナーでは、国指定史跡の清戸廹横穴墓の壁画の実物大模型を展示した。

このほか、企画展示室、講義室、資料室、特別収蔵庫、補修工作室などを備えている。職員は遺跡貴館長、考古学が専門の学芸員・吉野高光さんら四人。

開館時間は午前九時半から午後四時まで（入館は午後四時まで）。休館日は毎週月曜日と第三日曜日（第三月曜日は除く）をはじめ、祝日（文化の日を除く）、年末年始。

常設展示の観覧料は一般二百円、高校生百円、小・中学生五十円となっている。電話は0240（33）4763。

平成４年11月２日付 福島民報

歴史・遺産

町の歴史や民俗の資料を展示する町歴史民俗資料館が平成４年にオープンした。開館当時、原始、古代、中世、近世、近代、現代の各資料を展示した。国指定史跡の清戸廹横穴の壁画の実物大模型なども展示した。また、昭和50年から進められた双葉町史の編纂作業が平成14年に第５巻民俗編をもって完了した。27年間に及ぶ作業だった。

歴史の殿堂開館を祝う

歴史民俗資料館オープン

11月２日に双葉町歴史民俗資料館の落成記念式典を行いました。

式典には約150人が出席、岩本忠夫町長、新川克町議会議長、小野田禮常町教育委員長、坂本幹夫県議会議員、沢田喜雄県相双行政事務所長、石井実さん、桧野照武さんがテープカットし落成を祝いました。

広報ふたば　平成４年12月号

地道な努力 町史編さん

27年の作業に思いはせる

双葉町史編さん完結式

町、委員に感謝状

99歳の小野田委員長謝辞

感謝状を受けた編さん委員ら

完結した双葉町史

双葉町で二十七年間にわたって続けられてきた町史の編さん作業が終了し、二十五日、町役場で完結式が行われた。

町史は昭和五十年から事業が検討され、翌年に第一回編さん委員会が開催された。以後、原始から近世に至る歴史が各巻ごとにまとめられ、今年三月に最後の第五巻民俗編が発刊された。

完結式では岩本忠夫町長が「町史をかけがえのない町の文化遺産として、後世に受け継いでいけるよう活用していきたい」とあいさつし、編さん委員に感謝状を贈った。

丸添富二町議会議長が祝辞を述べ、九十九歳となった小野田恵助編さん委員長が「皆さんに喜ばれるよう編さんに当たってきた。町の発展のために役立ててほしい」と謝辞を述べた。松木清秀副委員長が事業経過を報告した。

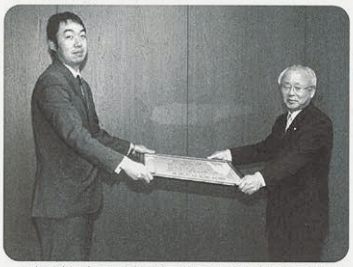
感謝状を受け人は次の通り。

▽委員長＝小野田恵助▽副委員長＝松木清秀▽委員＝小野田禮常、末永泰清、須賀惣八、斉藤重徳、故木幡嵩清、故北村久、故佐々木芳蔵、故渡辺一美、故渡部益鳳、故渡辺一夫

平成14年11月27日付
福島民報

清戸廻横穴が福島遺産百選に

「福島遺産百選」に清戸廻横穴が認定され、その認定証が2月7日、福島民友新聞社から井戸川克隆町長に贈られました。



▲渡辺浪江支局長から井戸川町長に手渡される認定証

広報ふたば　平成20年３月号

清戸廻横穴の壁面デザイン

清戸廻横穴が福島遺産百選に

TOPICS